

# 地理空間情報のAR（拡張現実）表示／アジア航測株式会社

社会インフラの工事や維持管理の分野では、今後、技術者不足や労働力不足が深刻化すると予想されており、省人化や効率化が課題となっています。このような課題を解決するために、アジア航測では、様々な地理空間情報の利活用を推進しており、現場作業の効率化やコミュニケーションの円滑化を目的として、AR（Augmented Reality／拡張現実）によってGISデータや3Dモデルなどの地理空間情報を表示する技術を開発しています。

ARは現実空間上にデジタルデータを重ね合わせて表示する技術であり、カメラやGNSS、ジャイロ（姿勢センサ）などのセンサを内蔵したタブレット端末やスマートフォンによって動作します。現実空間では見ることのできないデータを可視化する場合にARは威力を発揮します。例えば、用地境界線などの仮想線データや、地下埋設物、施工後の構造物などの3Dモデルを表示することにより、直感的な情報共有が可能となります。そのほかにも、分かりにくい場所にある調査地点に迷わずに行くような用途でも活用が期待できます。



## ◀表紙解説

[上]  
区画線やマンホールなどの道路GISデータのAR表示例

[左下]  
地下埋設物3DモデルのAR表示例

[右下]  
タブレット端末に表示されたARシステムの画面